

新型コロナについて

新型コロナウイルス感染症が、全国的に増加しており、感染防止対策の徹底をしているところでありますが、8月14日にご利用者様1名と職員1名が感染、15日に職員1名が感染してしまいました。その後、入所者・退所者・職員に抗原検査を行い、全ての人が陰性で終息をしています。

新型コロナが5類に区分されたとはいえ、普段より、検温・手洗い・うがい・マスクの着用・換気等基本的な事を徹底し、面会制限をして外部からの感染を防ぐ対策をしていましたが、残念な結果となりました。拡大を防ぐために、職員にも感染予防を徹底するように注意をして現在に至ります。

今回の新型コロナウイルスは変異株「ニンバス」で、のどの痛みを伴う症状が出るのが特徴という事ですので、少しでもおかしいなと思った時は、医療機関の受診をお奨めします。

ショートステイは、毎日の利用者様の出入りが沢山ありますので、十二分に注意して今後も感染症防止対策をしていく所存です。また、担当ケアマネジャー様との連携、病院との連携を取りながら、感染症対応力を高めていきます。

さ
み
ら
い
新
聞

第144号
2025年8月
発行責任者
新津 尚

認知症とコミュニケーション

認知症の方は理解力や判断力が低下している状態のため、うまくコミュニケーションを取るのは難しいです。実際、どのように接したら良いのか悩んでいる方も多いのではないのでしょうか？アルツハイマー病では、人の名前が思い出せない、普段自分が使うものの場所が思い出せないという初期症状から始まり、やがて進行すると一緒に暮らす家族の名前や顔が思い出せない、直前に食事をとったかどうか思い出せない等の症状が出ます。家族が不安に思うのは当然ですが、実は高齢者自身がもっとも傷つき、ショックを受けています。自身の症状が受け入れられず、落ち込みがちになったり、家族に八つ当たりするように怒りっぽくなったりなど、性格に変化が現れたように見えるのです。接し方で気を付ける点は、①尊厳を損なわないようにする②良い感情を残すようにする③わかりやすくシンプルに伝える事です。心の中では「うまくできないのは恥ずかしい」「いろいろ言うと、家族の手を煩わせるのではないかと、考えています。その一方で、助けを望んでいるのも事実です。介護者との信頼関係が築けていることが大切になります。

親の介護と家庭崩壊

親の介護を巡って家族仲が悪くなるケースは少なくありません。ある調査では、介護の考え方や役割分担を巡って「家族仲が悪くなった」と回答した方は全体の9割にもものぼります。要介護者の介助で生じる身体的・精神的疲労は、家族崩壊を招く要因の一つです。介護に疲れていたり、協力者が居なかったりする場合は高齢者支援サービスを活用してみましょう。プロの力を借りることは介護の小休止につながり、疲労軽減やリフレッシュすることができます。自治体によっては、独自の介護支援制度を設けています。例えば、紙おむつの助成や高額医療費の一部負担などがあります。

詳細については、各自治体の窓口や地域包括支援センターに問い合わせ・相談ができます。

また「解決策が見つからない」場合は、地域包括支援センターやケアマネジャー、かかりつけの病院、主治医に相談し、状況に適したアドバイスを受けると良いでしょう。あらかじめ、親の介護について兄弟間で役割分担をしてしないと、いざ介護が始まったときに